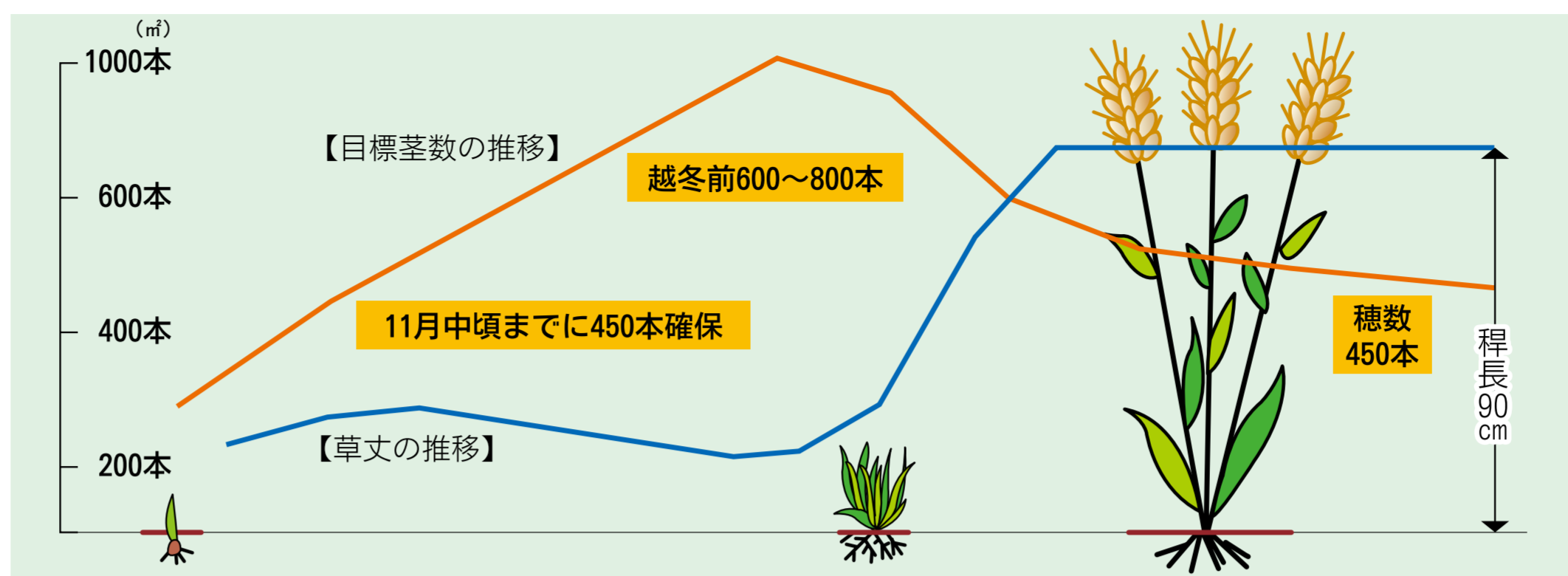


初期生育の確保が重要

発芽・苗立ち確保のポイント

1. 稲刈直後の排水対策を徹底し、碎土率を高める。
2. 石灰質資材の施用による酸度矯正と堆肥施用による土づくりを実践する。
3. 播種時期に応じた適正播種量を厳守し、目標苗立数を確保する。
4. 播種後、速やかに除草剤を散布する。
5. **播種作業は10月上旬を中心に実施**し、遅れても10月中旬までに終了できるように計画的に行う。



◎収量構成の目安と品質目標

| | |
|----------|------------------------|
| 収 量 | 400kg/10 a |
| 穂 数 | 450 本 / m ² |
| 2.3 mm以上 | 85% |
| 千 粒 重 | 35g |
| 容 積 重 | 690g/ℓ 以上 |
| 硝 子 率 | 40%以下 |

は重点技術対策

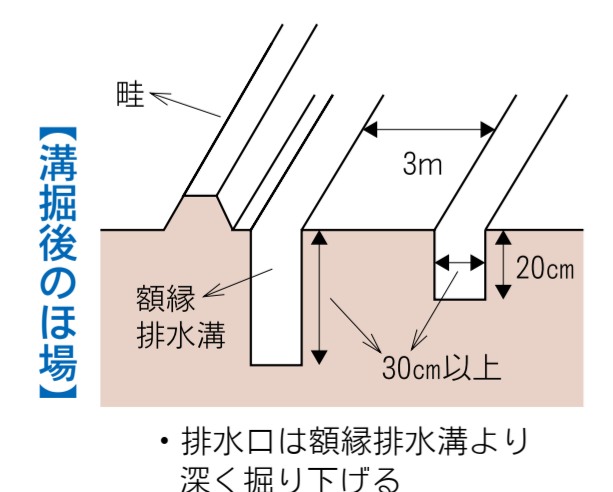
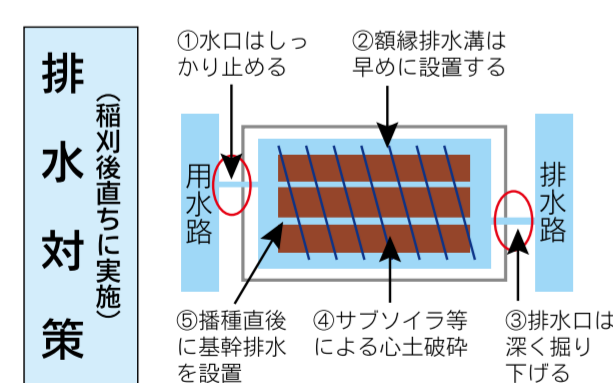
栽培管理のポイント

| 9月中旬~下旬 | 10月上旬~ | 11~12月 | 積雪期間 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|--|--|---|--|---|--|---|--|
| ★播種前の排水対策は確実に | ★耕起は丁寧に | ★適正播種量で苗立ち確保 | ★排水溝は随時手直しする | ★止葉展開期の追肥は葉色を確認して | ★適期刈取りで高品質麦に | | |
| <p>播種前の排水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 稲刈り後、直ちに額縁排水溝を設置する。 ● サブソイラーによる心土破碎と弾丸暗渠の設置。 | <p>耕起前の排水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2時間半浸漬する(浸漬時間厳守)。 ● 循環式催芽器による温湯浸漬法(45℃の温湯に入れ、Tコート50gを均一に粉衣)。 ● 薬剤処理(乾燥種子10kg当たりベンレート) ● 種子消毒の実施(病害発生防止のため実施) | <p>除草剤散布による効果</p> <p>条間の雑草が少ない</p> <p>トレファノサイド</p> <p>無散布区</p> | <p>追肥の施用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 播種1ヶ月後の追肥により茎数(450本/m²)を確保する。 ● 排水溝を補修して湿害を発生させない。 ● 融雪直後に野そ駆除を実施する。 ● 消雪直後の追肥は遅れずに施用し、茎数を確保する(茎数が多い場合は施肥量を減らす)。 | <p>赤かび病の防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 葉色が濃い場合は施肥量を減らす。 ● 充実と品質の向上を図る。 ● 止葉展開期の追肥は施肥時期と量を守り、粒の | <p>刈取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 適期に2回確実にこなす。 ● 開花時の防除が効果的。 ● 徹底する。 ● カラスノエンドウを刈取前には場内から除去する。 ● 異なる穀粒の混入を防止する | <p>収量後のほ場管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● より地力増進等に努める。 ● 利用や緑肥作物の作付けに大豆や野菜栽培による高度 | <p>刈取りの目安</p> <p>出穂後45日頃 子実水分30%以下</p> <p>上部2/3は、爪で抑えてもつぶれない</p> <p>下部1/3は、つぶれる</p> <p>子実水分30%時</p> |

排水対策・土づくりのポイント

◎排水対策と土壌のPH矯正を確実にし生育量の確保に努める

1. 排水対策



2. 土づくり(PH矯正)

- 土壌改良資材を施用し、土壌のPH 6 以上を確保する
- 基準となる基肥量を確実に施用する
- 深耕し作土深を確保し、根域を拡大させる

★施肥の目安(10a当たり)

| 施用時期 | 耕起前 | 播種時基肥(下記のいずれか) | 播種1ヶ月後 | 消雪直後(2月下旬頃) | 止葉展開期(4月上旬頃) |
|------|---------------------------------|---------------------|----------|---------------------|---------------------|
| 資材名 | 粒状貝化石 ※ 沖積土壌 150~ 洪積土壌 200kg | ○ハイマックス 燐加安444 40kg | 硫安 20 kg | 硫安 20kg以内 茎数過多の場合減肥 | 硫安 10kg以内 生育量等に応じ施用 |
| 施用量 | 発酵けいふん(粒) 沖積土壌 150kg 洪積土壌 100kg | OLP大麦48号 45kg | - | - | (追肥不要) |

※土壌診断の結果 酸性が強い場合は多めに施用する



播種のポイント

◎播種時期に応じ、適正な播種量を施用する

●目標苗立数と播種量の目安

| 播 種 期 | 目標苗立数 (本 / m ²) | 播種量の目安 (kg/10 a) | |
|--------------|-----------------------------|------------------|------------|
| | | ドリル播 | 表面散播 |
| 9月26~30日 | 140 | 6.0 | 6.5 |
| 10月上旬 | 150 | 6.5 | 7.0 |
| (10月中旬) | (200) | (8.5) | (9.0) |

※ドリル播種深度は3cm程度とする。

雑草防除のポイント

◎除草剤を適期に散布し、赤かび病等の病気を媒介させる雑草を生育させない

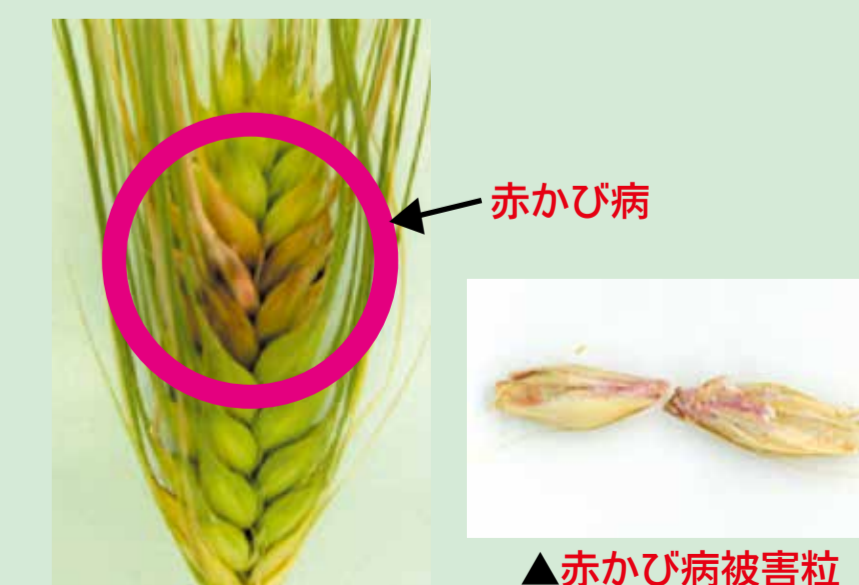
| 除草剤名 | 使用時期 | 使用量及び散布液量(10a当たり) | 使用方法 | 適用雑草 |
|---------------|------------------------|-------------------|--------|---------------------------------|
| トレファノサイド乳剤 | 播種後発芽前(雑草発生前) | 200~300ml・100ℓ | 土壌表面散布 | 一年生雑草 (ツユクサ、カヤツリグサ、キク、アブラナ科を除く) |
| トレファノサイド粒剤2.5 | 播種後発芽前 | 4~5 kg | | |
| ボクサー | 播種後~麦2葉期(雑草発生前~雑草発生始期) | 400~500ml・70~100ℓ | | 一年生雑草 |

※散播では使用できないので注意する

赤かび病防除のポイント

◎適期に2回確実にを行う

- 1回目…穂揃期(開花始め)
 - ・トップジンM粉剤DL 4 kg/10 a 又は、トップジンM水和剤 1000倍 150 ℓ/10 a
- 2回目…1回目散布から1週間後
 - ・ワークアップ粉剤DL 3 kg/10 a 又は、ワークアップフロアブル 2000倍 150 ℓ/10 a



※安全安心な大麦を生産、販売するために『栽培記録簿兼 GAP チェックシート』を記帳・提出しましょう。